

# WE THINGS

## GOOD MANNERS DOG TRAINING

はじめに

第三章  
共通言語

お散歩の共通言語  
許可制  
許可の練習



### 第三章 共通言語

犬に何かを伝える時に、「オスワリ」「フセ」「マッテ」「オイデ」など様々な言葉を使いますよね。

これらの言葉を私はキュー（合図）と呼ぶ事にしています。

キュー（合図）と似た言葉として、コマンド（号令・命令）と言われたりもしますが、決して犬に命令している訳ではないので、私はコマンド（号令・命令）という言い回しはせず、キュー（合図）という言葉を用いています。

この中でもキューという言葉がたくさんでできますのでここで少しご説明させていただきました。

そしてこのキューも共通言語の1つだと考えています。

#### お散歩の共通言語

私は考え事をしたり仕事に行き詰まった時、散歩に出かけることがあります。

頭を空っぽにして季節の移ろいをぼおっと眺めたり、あ！こんな所にお店が出来てる！と新しい発見があったり偶然会った知り合いと話し込んで色んな情報交換をしたり、そうこうしているうちになんだかスッキリしているなんてことがよくあります。

みなさんも散歩をする時は、ただ単純に歩くだけではなく、色んなことを見たり聞いたり感じたりしながら散歩を楽しんでいるのではないのでしょうか？



そして犬も人間と同じように、歩くだけでなく、嗅いだり、走ったり、掘ったり、追いかけたり、他犬と会ったり…そうすることで散歩の充実度はグンと上がるはずです。

多くの決まりごとがある私たち人間社会の中で共に暮らす犬たちは、1日の長い時間を限られた環境の中で過ごしています。

犬にとって「散歩」というのは外の世界と繋がる為、貴重な時間の1つであるとしても感じます。

「なるほどなー！じゃあこれからお散歩の時は、思う存分犬の意見を聞いてあげよう！」って気分になりますよね？  
でも、そういう訳にも行かないのが現状です。

先程も述べたように、犬たちは人間社会で暮らしています。

犬を苦手に思う方もたくさんいらっしゃいます。

また、一歩家の外に足を踏み出すと、車やバイクが通っていたり、食べてはいけない物が落ちていたり犬にとっての危険だらけです。

周りの人に配慮をしつつ、そして愛犬の命を守るためにも私はいくつかルールを設けています。

そのルールは共通言語の1つ、“許可制”というルールを作ってお散歩の充実を図るようにしています。



## 許可制

ここでは私が実践している共通言語を使った管理のひとつ、“許可制”をご紹介します。

許可の言葉の意味を調べると…願いを聞き届け、ある行為・行動を許すこと。一とありました。つまり犬の願いを聞き届け、可能であれば叶えてあげる事として私は使用しています。

簡単にいうと、「何かしたい時は、先に報告してね！」という事です。

余談ですが、我が家の人間同士での例を挙げると、家族で一緒にテレビを観ている時に、誰かが何も言わずチャンネルを変えると、他の人はビックリするので

「一声掛けてよ！」と言い、変えた人は「だって今観てなかったから！」という風に少しモめます。

こんな事でモめるなんて事したくないので、こういう時にルールがあるといいですね。

＜チャンネルを変えたい時はまず「チャンネル変えてもいい？」と必ず他の人に一声掛ける。変えても良ければ「いいよ！」と返事をする。＞

そしてこのルールというのが“許可制”です。

互いの考えの相違を少なくする為にも共通のルールを事前に作っておく事で、とはいつても犬はどこまで行っても犬だし、人間はどこまで行っても人間なので100%を理解する事は出来なくても、愛犬との意思疎通は現状より身近なものになるかと思います。



許可制にしている我が家では、散歩中に何か気になるものがあった時、パートナー（私の愛犬）は私の顔を見ます。

「おかあさん、あれ確認してもいい？」というように希望を叶えるため一生懸命見てくれます。

時には交通量の多い道で危険だと思った場合は首を横に振ったり「ダメだよ」と言います。

そうでなかった場合は、その目的であろうものを私が目で確認し問題なければ「いいよ！」という意味を込めて「OK」と言います。

その「許可」の合図を聞いて思う存分に目的を果たした後は、満足そうな顔で戻ってきます。



## 許可の練習

まず、練習するにあたって、急に刺激が多い外やお散歩のルート等から始めると気が散って練習どころではありません。

はじめは、落ち着いて物事を判断できる慣れたお家の中で他に気になる物等がないように片付けた後に集中できる環境を作ってから始める事が重要です。

そもそもですが、犬は"許可"という概念を知りません。なので犬にわかりやすく伝える事が何よりも大切です。

### \*流れ

①まずは"許可"の意味になるキュー（合図）を考える

私は「OK」という言葉をキューにしました。OKではなく「よし！」や「いいよ！」でも、普段使っていない言葉を使うのがポイントです。

②お家の中で、犬にカラーとリードを着ける

③犬が強く引っ張ることがあっても危なくないところにリードを引っ掛ける

④リードを犬が引っ張っても届かないギリギリのところにおやつ等の食べ物を1つ床に置く

⑤犬と向かい合うように食べ物を間にして立つ

⑥犬が食べ物を見つけ、こちらを見るのを待つ

⑦犬の視線がこちらを向いたら「OK！」等許可のキューを言う

⑧合図の後すぐに、床に置いた食べ物を手で取ってあげる。

以上の手順を繰り返し練習します。



<置いてある食べ物が欲しいときは、こちらを見て許可の合図が出たら食べて良いよ。>というルールです。

この練習を繰り返す事で、まず「欲しいものがある時は、人を見れば良いのか!」と犬が気づいてくれるようになります。

さらに許可の合図が出ればそれが叶うと言う事に気づいてくれます。

その結果、自分の要望は許可の合図が出れば叶うと理解してくれるようになります。

そこまでくれば後は犬の方から許可の合図をもらう為に確認を取る事を積極的に行うようになるという流れです。

これで許可のルールの完成です。

\*ここでのお話はあくまでも一例であり、また、かいつまんだ内容もあります。

それぞれの犬の状況によって他の方法が良い場合もありますので、実際のマンツーマン講座では、別の方法を提案する事もあります。

